

4 平成28年度「事業のチェックポイント^{ファイブ}5」の概要

「男女共同参画基本計画」の主な関連事業について、担当課所が「チェックポイント5」に基づき自己チェックを行った結果は次のとおりです。

(1) 「チェックポイント5」のチェック結果

チェックポイント5を実施した平成28年度関連事業…255事業

1	事業の対象となる人々及びその現状を男女別に把握した	94事業 (36.9%前年：40.1%)
2	事業の企画、立案、実施の際、女性、男性双方の意見を聞いた、または双方が参加した	162事業 (63.5%前年：64.2%)
3	女性、男性双方にとって利用・参加しやすいような配慮をした	142事業 (55.7%前年：56.4%)
4	事業の方向性を男女共同参画に配慮した	104事業 (40.8%前年：44.0%)
5	事業の効果が女性、男性それぞれに寄与した	188事業 (73.7%前年：75.5%)

(2) 男女共同参画に配慮した主な内容（概要）

※＜ ＞内は事業名等。特に記載のないものは各種事業共通。

①事業の対象を男女別に把握

- ・相談件数、研修受講者（修了者）数、対象職員数、利用者数、平均賃金、育児休業取得者数などで、男女別にデータを把握した。
- ・男女別アンケートを実施し、ニーズの把握や今後の事業展開に役立てた。
- ・災害対応における男女のニーズの違いを踏まえ、事業を実施した。

②企画、立案、実施への男女共同参画

【県民コメントの実施】

- ・条例や計画の策定において県民コメントを実施し、男女の区別なく意見を聞いた。

【ボランティア団体・NPO等からのヒアリング】

- ・女性、男性双方の会員がいる関係団体と意見交換を行った。

【委員などにおける女性の登用】

- ・審議会、委員会、協議会、審査会等、各種会議の構成委員に女性を積極的に登用した。

【女性職員、男性職員双方による企画・立案・実施】

- ・企画会議に男女双方の職員が参加した。
- ・事業の実施や公的広報物作成では、女性職員・男性職員双方の意見を反映させた。
- ・対象業者に対する立入調査を女性職員・男性職員が共に行った。

【女性、男性双方の県民が事業に参加】

- ・会議等の委員は男性女性に偏りがないように委嘱した。
- ・地域で行うワークショップ等に女性・男性双方の住民が参加し意見を述べた。

③女性、男性双方にとって利用・参加しやすいような配慮

【インターネットの活用】

- ・相談、各種講座、イベント等の申込みを、パソコン・携帯電話等から電子で行うことができる。
- ・啓発資料などはいつでもホームページからダウンロード可としている。

【時間帯の配慮】

- ・事業や相談、研修会等を夜間や休日に実施したり、日中と夜間の時間帯両方を設けるなど、女性・男性双方が参加しやすいよう配慮した。

＜男女共同参画推進センター運営費＞

「With You さいたま」は月～土曜は21時まで、日曜・祝日も17時30分まで開館している。

【育児・介護への便宜】

- ・県民を対象とした講座等を実施する際には、可能な限り保育室の提供、保育士の手配などを行い、子育て世代の参加に配慮した。

【その他】

- ・歩道、公園、県営住宅の計画又は整備について、誰もが利用しやすい公共設備とするため、バリアフリー化を推進している。

④事業の方向性を男女共同参画に配慮

- ・広報物の作成、研修会の実施において、内容が男女のどちらか一方に偏ることがないように配慮した。

＜未来の女性活躍推進事業＞

男女ともにいきいきと働き続けられる社会の実現を目指し、大学生、高校生、小学生それぞれに向けた女性活躍に関する教育を行った。

＜県地域防災計画に従った体制整備＞

避難所を設置する施設管理者に、妊娠婦や乳幼児等の要配慮者や女性に配慮した避難所の管理運営を行うよう働きかけた。

⑤事業の効果が女性、男性それぞれに寄与

＜社会福祉施設人材定着化事業のうち子育て支援事業＞

女性の多い福祉施設職員の仕事と家庭の両立を支援することにより、人材の定着化に繋げた。

＜「男性のための悩み相談」の実施＞

男性臨床心理士による男性向けの電話相談を実施したことにより、男性のニーズが把握でき、相談事業の今後の展開に役立てることができた。

＜学校応援団推進事業＞

学校応援団にボランティアとして参加し子供と接することで、地域の絆が深まり、地域の教育力の向上に男女それぞれに寄与した。